

図画工作科

図画工作科部 大塚 裕貴 貞永 瞳 原 太郎
研究協力者 郡司 明子

I 図画工作科における「社会に変革を起こす子ども」について

対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども

本校の学校教育目標「つよく ただしく かしく」を具現化した子どもの育成のためには、各教科等の学習指導要領を基に、本校の子どもの実態を踏まえて捉えた資質・能力を育むことが必要である。図画工作科の問題解決的な学習では、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育むことを目指す。この資質・能力と、図画工作科の問題解決的な学習の過程の具体は、以下のとおりである。

生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力

(1) 知識及び技能

対象や事象を捉える形や色などの造形的な視点について理解したり、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫したりする力

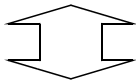
(2) 思考力、判断力、表現力等

表したいことや表し方などについて考え、自分の見方や感じ方を深め、よさや美しさを感じ取り味わう力

(3) 学びに向かう力、人間性等

味わったりつくり出したりすることを楽しみ、造形的な創造活動を通して生活や社会と主体的に関わろうとする態度

<「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」についての三つの柱>

過程	学習活動
であう	対象や事象と出会い、イメージや思いを広げ、 自分の造形活動に対する造形的な課題もつ
ひろげる・ あらわす	造形活動を通して対象や事象の価値に気付く  自分のイメージや思いを広げ、造形活動に取り組む
ふりかえる	自分の造形活動に対する造形的な課題を解決する 自分が見いだしたよさや美しさ、造形活動の過程を振り返る

<本校図画工作科の問題解決的な学習の過程>

全体研究を踏まえ、図画工作科における「社会に変革を起こす子ども」を「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」と具体化した。図画工作科の問題解決的な学習において、子どもは多様な価値をもつ対象や事象と出会い、感じたことを基に、造形活動に対する自分のイメージや思いを広げ、造形的な課題をもつ。造形活動に取り組む中で、対象や事象に繰り返し関わったり、自分と友達の造形活動を基に共通点や相違点を比較したりしながら、対象や事象の多様な価値に気付く。そして気付いた価値からさらにイメージや思いを広げ、造形活動に取り組んでいく。イメージや思いを広げることと対象や事象の多様な価値に気付くことの往還を繰り返すことで、自己の造形活動が更新され、造形的な課題を解決していく。自己の造形活動が更新されることは、対象や事象の多様な価値に気付いた姿であり、それを作品や言語、行為によって表すことは、他者が対象や事象の多様な価値に気付くきっかけを得ることにつながる。本研究で捉えた「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」の姿は、資質・能力の三つの柱を相互に関係し合うことを活性化している姿であり、図画工作科の問題解決的な学習の中で、上記のような姿が現れることを積み重ねることにより、本校図画工作科で捉えた資質・能力を育成することができる。

2 図画工作科における「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫

これまでの本校図画工作科の研究や実践の中で、「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」に相当する子どもは、「用具の使い方」や「形や色などに関する知識」「自分の作品や活動へのイメージや思い」などの情報活用に長けていた。形や色などから感じたイメージを基に自分の思いを広げたり、広げた思いを基に必要な材料や用具などを吟味したりして、造形活動に取り組むことができていた。一方で、自らの表現活動に没頭してしまうあまり、以下のような姿も見られた。

- ・ 友達の作品や活動を見ようとしたり、生かそうとしたりしないため、形や色などを基にした対象や事象の多様な価値に気付くことができない。（情報の収集）
- ・ 互いの造形活動を比較しないため、造形活動の共通点や相違点から自分のイメージや思いを広げられない。（情報の関連付け）

そこで、図画工作科の学習の中で「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」の姿が現れるように、以下の学習指導の工夫を行うこととした。

多様な造形的な視点から互いの造形活動を見ることができる環境の設定

「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」の姿が現れるためには、自分が造形活動に取り組む中で、形や色などを基にした対象や事象の多様な価値に気付くことが欠かせない。そこで、多様な造形的な視点から互いの造形活動を見ることがのできる環境を設定する。この学習指導の工夫では、撮影機器を使って、児童の作品や活動に取り組む様子を撮影し、児童の活動と並行し

てモニターやタブレットにリアルタイムで映し出すことや、児童が撮影者となり、自分や友達の作品や活動を記録したものをタブレットで見ることなどが考えられる。児童の造形活動が教室の様々な場所や屋外で行われる場合でも、撮影機器を用い、ネットワークを介してモニターやタブレットで共有することにより、離れた場所で互いの造形活動を見ることができるようになる。

第2学年「けいとわーど（造形遊び）」

造形遊びなどの教室全体が活動場所になる題材の場合には、撮影機器を高い位置に設置し、教室が見渡せる俯瞰の視点を提示する。（図1・2）

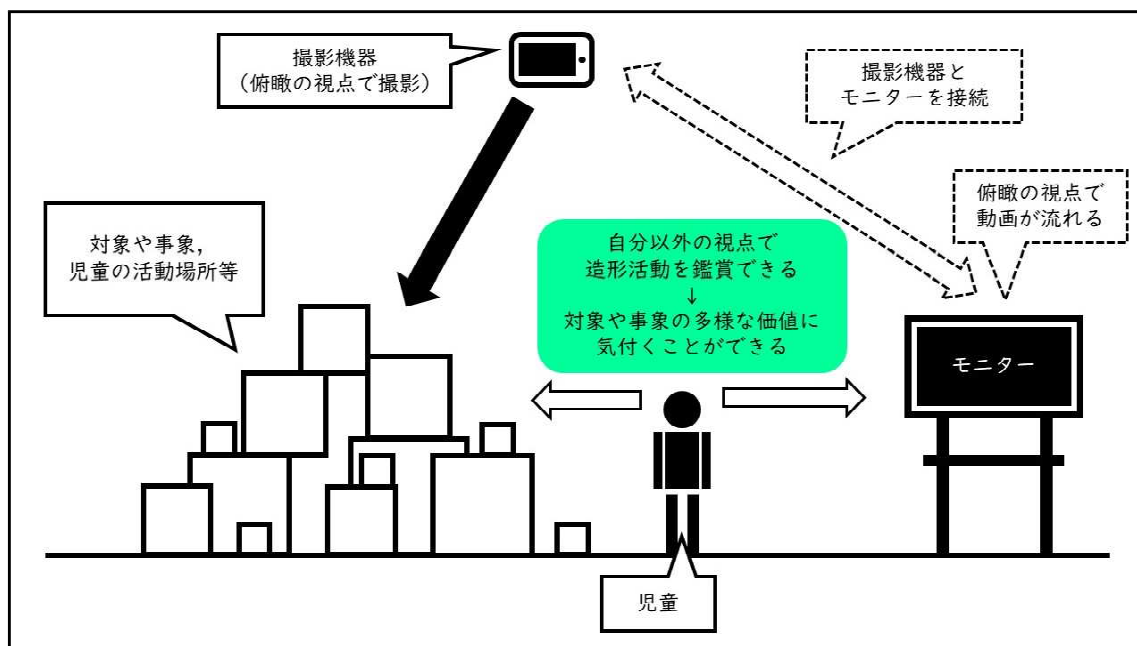


図1 造形遊びの学習における「互いの造形活動を見ることができる環境の設定」の例

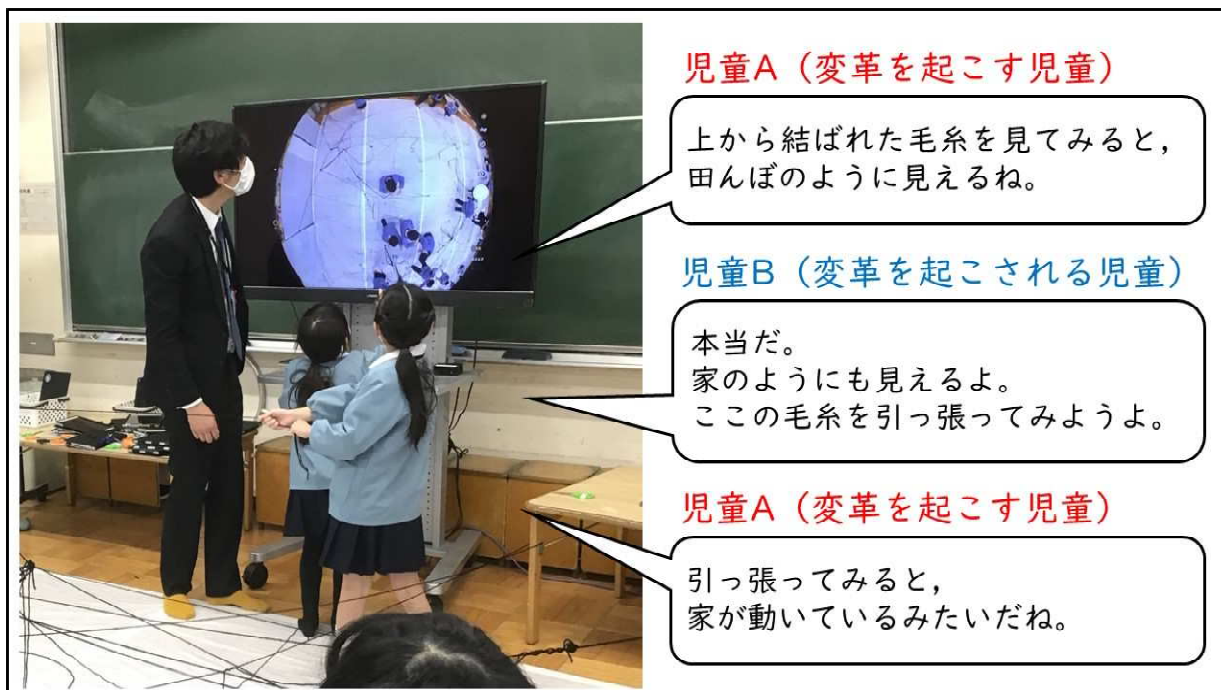


図2 俯瞰の視点をを用いて互いの造形活動を鑑賞する様子

互いの造形活動の様子からイメージや思いを比較する機会の設定

「対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為，言語によって，他者の造形活動を更新できる子ども」の姿が現れるためには，自他の造形活動の共通点や相違点から自分のイメージや思いを広げることが欠かせない。そこで，互いの造形活動の様子からイメージや思いの共通点や相違点を比較する機会を設定する。この学習指導の工夫では，造形活動に取り組む中で，児童の作品や活動をしている様子を記録した静止画や動画を基に，児童は自己の作品や活動に対するイメージや思いを発表したり，友達の作品や活動に対して感じとったことを発表したりする。児童が自分や友達の作品や活動に対するイメージや思いを焦点化できるように，児童の発言を基に作品や活動の静止画を拡大・縮小したり任意の場面で動画を再生・停止したりするなどして提示する。

第2学年「けいとわーんど（造形遊び）」

教室の中で毛糸を結んだりつないだりする造形活動の様子からイメージや思いの共通点や相違点を比較する機会の設定をする。本題材では，児童の造形活動が常に変化していくため，振り返りの場面において，児童が撮影した静止画や動画を基に児童のイメージや思いについて焦点化し，共有する。

児童A1（変革を起こす児童）

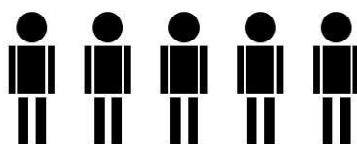


私は動画見て，ここの毛糸がぐちゃぐちゃ集まっているところがクモの巣みたいで面白いと思ったよ。

児童A2（変革を起こす児童）



私はこの動画で毛糸の動きが生きものみたいに见えたよ。はじっこを持って毛糸をひっぱったのかな。



次の時間は毛糸を集めてみたり，毛糸を引っ張って毛糸の動きを見たりしてみたいな。

児童Bたち（変革を起こされる児童）

図3 振り返りの場面で，活動中に撮影した静止画を基に児童の思いを焦点化・共有化している様子

3 成果と課題

本校図画工作科では，「対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為，言語によって，他者の造形活動を更新できる子ども」の姿が現れるよう，その授業における具体的な姿や学習指導の工夫について研究を進めてきた。その結果，次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

児童は、学習の導入において対象や事象と出会い、イメージや思いを広げながら絵や立体、工作や造形遊び、鑑賞などの造形活動に取り組み、対象や事象がもつ多様な価値に気付くことができた。そして、造形活動に取り組む中で、気付いた事象や対象の価値を基に自分の作品や活動をイメージや思いに合ったものにするために造形活動に取り組んだ。そのような児童の姿は、友達にとって対象や事象の多様な価値に気付くことにつながり、その造形活動を更新することができた。このような関わり合いを繰り返す中で、児童は自己のイメージや思いを広げ、自己や他者の造形活動を更新していた。

これらの姿は、図画工作科では、「**対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども**」の姿である。これは、姿が現れるための学習指導の工夫により、児童が、対象や事象がもつ多様な価値に気付くことができたためと言える。

○課題

対象や事象の多様な価値に気付けないために造形活動に行き詰まる児童が見られた。理由として、「事象や対象と触れ合う時間が足りないため多様な価値に気付けない」や「であう過程において造形的な課題を自覚できないため、自己のイメージや思いに合った対象や事象の多様な価値を選ぶことができない」などが考えられる。今後は「であう」過程で対象や事象を捉えるための造形的な視点を提示し、対象や事象と十分に関わる機会を設定するなどの学習支援を工夫して行っていく。

【参考文献】

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』平成30年2月，日本文教出版。